

サロン 20 回の歩みをふり返って

事務局長 高橋 肇

CSNサロンは、さる10月12日の奥田シニア・アドバイザーによる講演で、第20回を迎えた。

平成18年12月18日の第1回から9年、年2回の開催を続けてきたことになる。

サロンの開催意義

年に何回か会員が気楽に顔を合わせられる交流の場として、サロンは始められた。

専用の事務所がない我々としては、メンバー相互の親睦を深める場は、このサロンでしかないの、その役割は大きいといえる。

サロンといえば、ノーベル賞受賞者がその発明・発見のきっかけを、研究所のサロンで同僚と

のなにげない会話から得た、とその効用を評価するエピソードがよく伝えられる。一方、結果の見えない会合を「サロン化している」と批判的に使われることもある。

わがCSNサロンは、目的が「気楽に顔を合わせられる交流の場」であるから、おおいに“サロン化”してよろしい、と考えている。

講師と開催テーマ

サロンであるから、メンバー間の談笑の時間をおおくとすべきかもしれないが、それでは間が持てないだろうということで、第1回目から話題提供をしていただくゲストスピーカー（講師）をお招きしている。

あらためて講師と開催テーマの一覧表をながめてみよう。

テーマは、じつに様ざまである。サロンの企画時点で、CSNの取り組み（環境・防災・社会資本の維持更新）に関連したものを選びべきかいつも迷うが、結果はご覧のように関係あるようなないような話題となっている。

講師は、これは一見してわかるが、すべてCSNメンバーまたはその知人・友人である。

それぞれの方が、その道の第一人者や先達として活躍されている。テーマの多様性とあいまって、CSNの

CSNサロン：講師と開催テーマ一覧

回数	開催日			開催テーマ	講師
	年(平成)	月	日		
1	18	12	18	「バイオマスタウンアドバイザーの役割り」	宇佐洋二
2	19	6	18	事業継続計画（BCP）の取り組み	辻田満
3		12	3	今、求められているNBCRテロ対策	井上忠雄
4	20	6	9	コミュニティビジネスの紹介	辻田満
5			12	1	浮体式橋梁の提案
6	21	6	8	コーポラティブハウスとまちづくり	杉山昇
7		12	7	国境なき技師団の活動	松尾全士
8	22	6	7	地下鉄の父・早川徳次の事業展開とその評価	君島光夫
9		12	6	プレゼンテーション・スキル	岬麻紀
10	23	6	6	日本酒の文化	高瀬斉
11		12	5	酵母の話	宮川都吉
12	24	6	1	日本酒の文化 第2弾	高瀬斉
13		12	3	ブータン王国談義	白井一
14	25	7	8	これからの地方自治	成瀬宣孝
15		10	14	伸び行く航空業界と空港を巡る諸問題	星弘行
16	26	1	13	地方自治体における危機管理	太田清彦
17		7	14	「土壌学」の話	牛久保明邦
18	27	1	12	海で天然の魚をつくる	鈴木達雄
19		7	13	食糧生産に貢献する陸上養殖の未来・屋内型エビ生産システム	野原節雄
20		10	12	歴史を学ぶとビジネスの発想が変わる	平井光之
				安全管理とリスクアセスメントについて	奥田眞司

人材ネットワークの広がりや深さが読み取れると思う。

20 回のなかで 2 回来ていただいた方が、9・11 回の高瀬斉氏である。その講演「日本酒の文化」が好評で、再リクエストとなった。なお、あいだにはさまる第 10 回は宮川都吉氏「酵母のはなし」で、氏も日本酒に造詣が深く、サロン 3 回連続のお酒の話題であった。

女性講師は、第 8 回の岬麻紀さんひとりである。土木系 NPO が女性になじみにくいというわけでもないだろうが、なぜか機会がなかった。

なお、シニア・アドバイザーの西島葉子さんに次回講演をお願いしているので、ご期待を。

事務局苦労話

苦労というほどのものはないが、しいていえば講師への謝礼が車代しか出せないことである。ただ、いままでみなさんにご理解いただいてきたので、これからはこれが障害になることはないと考えている。

問が残るところだ。

それを補うのが、17 時からの懇親会である。

サロンは、いつも参宮橋のオリンピック記念青少年総合センターの会議室で催される。

本センターは広大な施設で、構内にレストランが数か所あり、懇親会は「レストランとき」で開かれる。ここは、200 席もある食堂であるが、常連となった我われのためにいつも奥まっで落ち着いたところに席を設けてくれる。



懇親会(レストラン「とき」)

講師選びについて、20 回つづいてよくタネが尽きないね、といわれる。

たしかに、前述のように講師陣は知人・友人なので、そのうち出尽くすときがくるだろう。

また、わたし自身の人脈も、現役引退とともに枯れていくと思っていた。

ところが、リタイアしてみると状況は一変した。

NPO や地域活動を通じて日々新しい出会いがあり、それもビジネスマン時代では得られなかった世界へと広がっていくのである。

70 歳をすぎたいまでも、わたしの手元の候補者名簿は増えつづけている。生意気ないかたになって恐縮だが、じつは、講師選びにちっとも困っていないのだ。

サロンの重要な補完機能—懇親会

サロンは、毎回 15～17 時の 2 時間である。講演のあと、10 分程度の質疑応答があって終わる。これでは、“気軽な交流の場”といえるか疑

大きな窓に代々木公園の緑がひろがり、じつに居心地がよい。酒肴もリーズナブルだ。

ここで、お酒を囲んでおおいに議論が盛りあがるのである。講演と懇親会が一体となったこの約 4 時間こそ、本当のサロンではないかと思う。

であるから、どうかみなさま、講演だけでお帰りにならず、懇親会まで参加されるようお願いする次第である。

サロンの今後

とくに気張ることもなくここまで来たので、今後もそんなに肩に力を入れなくていいと思っている。ただ、会員の交流という観点からすれば、もっとメンバー自身に講演をお願いしたらいいのかもしれない。

事務局として、メンバーに楽しんでいただけるサロンとなるよう精いっぱい工夫をこらしつつ、これからの 10 年は世代交代を念頭においた運営も必要と考えている。